議員団ニュース

日本共産党平塚市議会議員団
電話 0463－23－1111（内線 2375）
平塚市浅間町９－１　　平塚市議会控室
No. １４２９　２０１７年１１月１９日発行

日本共産党平塚市議会議員団
団　長　　髙　山　和　義
電話・fax　31 - 4638
k.takayama@mb.scn-net.ne.jp
渡　辺　敏　光
電話・fax　31-6431
w-toshi@agate.plala.or.jp
松　本　敏　子
電話・fax　59-4607
mail@matsumoto-toshiko.jp

日本共産党議員団の法律相談
次回は１２月２１(木)です
午後４時～６時　(要予約)

湘南地方市議会議員研修会に参加して

11月2日(木)のに、藤沢市民会館において湘南地方市議会議長会議員研修会が開催されました。この研修会は、平塚市をはじめ、鎌倉市・藤沢市・茅ヶ崎市・小田原市・南足柄市の6市議会に議員が一堂に会して持ち回りで年1回研修を行うものです。

講演で学んだことを議会運営や議員活動に生かすことを目的にしています。

東京大学高齢社会総合研究機構教授　飯島勝矢氏を講師に、「なぜ老いる？ならば上手に老いるには　―フレイル予防を通しての健康長寿まちづくり―」のテーマで講演されました。飯島氏は、医学博士でもあり、老年医学総合老年学が専門とのことです。

講演の中で特に注視したことを何点か記しておきます。

1つ目は、少子化対策は経済に直結している。経済が良くならないとなかなか進まない。高齢化対策は、何とかなるし、何とかするしかないと考えている。産業化しやすい課題でもある。

2つ目に、長寿に与える影響は遺伝要因が25%で、自分で管理可能なものが75%である。①食事；バランス・塩分・カロリー等②歯科口腔；口・歯の管理③運動；身体活動・外出頻度④メンタル；ストレス・気分⑤社会性；生きがい・参加・貢献

3つ目に、孤独は肥満より健康に悪い。運動習慣があっても文化・社会活動していない人は、運動習慣がなくても文化・社会活動をしている人より死亡リスクが3倍高い。などです。

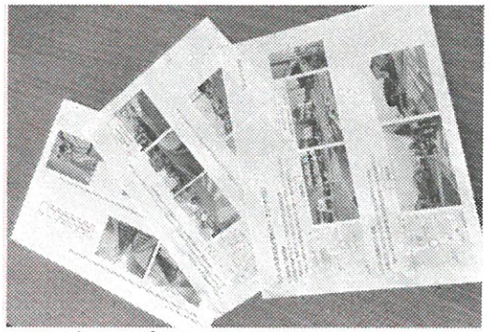
飯田氏の提唱する、フレイルチェック事業導入自治体が全国に広がってきており、特に、神奈川県では、藤沢市・茅ヶ崎市・厚木市を始め7市ですでに導入しています。単発での健康チェックでなく、10年以上に渡って身体的・精神的・社会的状態を総合的にチェックしデータ化しておくことは大変重要な事業と感じました。また、それを推進するサポーターも高齢者を養成して実施していくこともポイントです。

各自治体の高齢者数に対しての参加状況がどうなのかを確認できませんでしたが、課題としては、参加者数・率をどう高めるのかではないでしょうか。また、参加できない・しない高齢者への呼びかけや、行政・地域自治会・ボランティアが総合的に連動した仕組みを作れるかがカギと考えられます。

平塚市では、自主的住民組織である市内18ヶ所の町内福祉村に、本来は国の統一した制度であるはずの介護予防の新総合事業で訪問サービスＢ型を組み入れています。町内福祉村で目指す活動は、日常生活支援事業と合わせて、地域住民や地域で活動する団体とも協同する活動と位置付けて、このフレイルチェック事業などの取り入れも検討すべき活動ではないでしょうか。

文責；T

私立幼稚園保護者と市会議員の交流会を開催


第７グループの資料の一部

11月2日(木)に平塚市私立幼稚園父母の会連合会主催の市議会議員と父母・園長との交流会が開催されました。毎年1回実施されています。

当日は、28名中27名の市議会議員が参加し、地域ごとに5つのグループに分かれて交流しました。共産党議員団も3名の議員全員が参加しました

テーブルごとに、父母も皆さんが、事前に地域の安心安全を中心に、問題のある場所・問題点などを写真入りで資料として用意されていました。

議員からは、「なかなか変わらないこともあるが勇気をもって要求し続けてほしい」「地域自治会などに相談を持ちかけ一緒に要求することも大切」「黄色い手旗、歩道近くの植栽の剪定を要望することも有効」などの意見・アドバイスが出され、時間内ですべてを話し合うことはできませんでしたが、活発な交流ができました。

議会運営委員会視察についての報告(一部抜粋)

報告者：髙山和義

【茨城県水戸市】

議員定数 28 人。人口約 27 万人、茨城県の県庁所在地です。明治 22 年に市政を施行した、市政としても歴史の古い自治体で、昭和 20 年の戦災により、平塚市と同様に、市外の大半を消失しましたが、戦後に目覚ましい復興を遂げました。可住地面積は 182 ㎢と平塚市の 3 倍程度の面積です。昼夜間人口比率が 113%近くあり、就業者人口でも、78%が商業・観光・サービス業中心の第 3 次産業とのことで、産業特性が非常に顕著な自治体となっています。

また、平成 23 年の東日本大震災では、人的・物的に甚大な被害を受け、道路の陥没、ライフラインの寸断、公共施設の損壊等市民の生活基盤に大きな被害を受け、市庁舎や市民会館などは建て替え工事を行っており、視察時も仮庁舎で業務を行っていました。4 大事業として、市庁舎 205 億円、市民会館 190 億円、ごみ処理施設 365 億円、スポーツ施設 103 億円の合計 854 億円(市財源としては 350 億円程度を予定)の大型プロジェクトを推進しています。議会として、議長を除く全議員参加による特別委員会を設置して議論を重ねているとの説明がありました。

議会事務局から説明を伺いましたが、その何点か申し述べておきます。

① 議員構成として、10 期、12 期と長く議員をされている方が多いことが特徴的に感じました。女性議員は 3 人とのことで、女性が議会に参加しにくい社会的風土があるのではないかとも思いました。

② 質疑及び質問は、代表質問、一般質問ともに、一括質問一括答弁方式で、発言回数は申し合わせにより原則 2 回までとし、1 人 30 分を会派ごとの人数に配分しています。

③ 請願・陳情については、郵送等以外は原則同じ扱いとし、提出期限以降に提出されたものは閉会中審査とする。又は、次の議会に付議するとしています。しかし、会期中審査対象は、議会招集告示日（本会議初日の 1 週前の議会運営委員会の日）となっています。

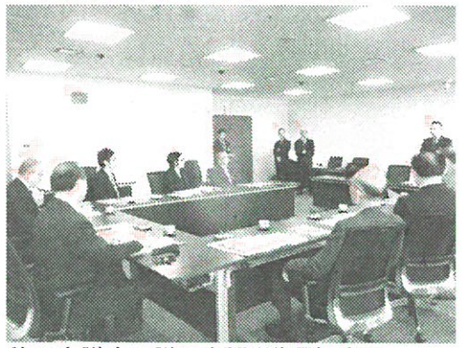
④ 昭和 63 年から、庁舎 1 階ロビーにおいて定例会の市民向け放映が開始され、平成 21 年から本会議のライブ配信と録画配信開始、平成 23 年から常任委員会のインターネット録画配信並びに議事録のインターネット公開を開始しました。

⑤ 常任委員会ごとに閉会中の審査を開催し審議しています。

⑥ 政務活動費について、5 人の外部学識経験者による支出等審査会（議長の私的諮問機関としての位置づけ）を設け、使用基準についての審査を行っています。透明性を確保するためには重要な取り組みであると感じました。

【秋田県秋田市】

議員定数 39 人。秋田市は人口約 33 万人、秋田県の県庁所在地です。江戸期には、佐竹藩の城下町として栄え、東北を代表する夏祭りである「秋田竿燈まつり」には 150 万人もの観光客で賑わうとのことです。県人口の 3 割、県内総生産の 3 分の 1 を占め



秋田市議会で説明を聞く議運視察団

昨年、平成 28 年度に新庁舎建設が終了しましたが、計画時には平塚市新庁舎を視察し、議場等も参考にされたとのことでした。電子表決装置や氏名標などは同じ業者のものを使用しているとのことですが、秋田杉をふんだんに使った暖かさを感じる議場となっていました。

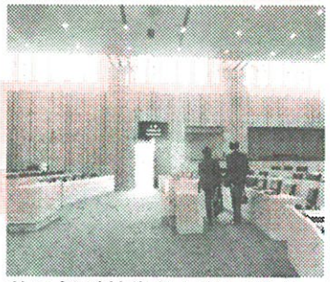
議会事務局から説明を伺いましたが、その何点か申し述べておきます。

① 議員定数 39 人中、この 3～4 年の選挙ごとに 10 人前後が入れ替わっているとのことです。水戸市と異なり 6 期以上の議員は 2 人だけでした。市民の中での議会に対する意識が高いのではないかと感じました。

② 代表質問・一般質問とも、初回質問は一括で、再質問以降は 1 問 1 答方式で、平塚市議会と似通っています。しかし、代表質問・一般質問合わせて、1 議員年 1 回としています。議案に対する質疑は別となっていますが、発言機会としてはあまりにも少ないのではないでしょうか。市民からの疑問は出されていないのか気になるところです。

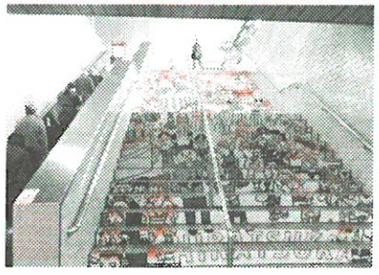
③ 同一メンバーによる常任分科会・常任委員会の 2 本立てを同日開催する仕組みなど、長年の慣行と申し合わせによって行っていると思いますが、外から見ると複雑な仕組みになっているように感じました。

両議会とも、議会運営に当たっては、全員参加を基本的考えに努めていることを強く感じました。



秋田杉が特徴的な秋田議会議場内部
庁舎全体も使われています

平塚駅前広場地下道がミュージアムに



11 月 3 日(金)に、平塚駅前広場地下道の魅力向上のため、パブリックアートで地下道を楽しく、美しく彩る「平塚地下道ミュージアム」が開設されました。これは、昨年度、公園通り新仲商店街の建設現場の仮囲いに壁画の制作を行った平塚まちなか美術館実行委員会が、平塚市とコラボレーションすることにより実現した企画です。

広告物の改善など課題もあり、担当課に指摘しましたが、皆さんも地下道の絵画を楽しんでください。